



東京女子医科大学学術リポジトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

Differences in the genetic backgrounds of patients with alcoholic liver disease and non-alcoholic fatty liver disease

著者名	山本 国子
発行年	2020-10-16
URL	http://doi.org/10.20780/00032791

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3092 号	氏 名	山本 国子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山本 雅一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>アルコール性肝疾患(ALD)と非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)患者において、疾患の発症と進行、肝細胞癌(HCC)に遺伝的背景が関与するか、一塩基多型(SNP)の頻度を比較検討した。臨床病理学的に脂肪性肝疾患と診断した 318 例(ALD118 例、NAFLD200 例)を対象とした。検討遺伝子は、アルコール代謝: ADH1B、ALDH2、脂質代謝: MTP、PPARG2、糖代謝: KCNQ1、KCNJ15、肥満: ADRB3、TLR4、脂肪肝: PNPLA3 とした。①ALD と NAFLD、②非肝硬変(n=213)と肝硬変(n=105)、③HCC の有無(有 n=59、無 n=259)、それぞれでアレル頻度を比較した。結果① ADH1B(GG 型)と ALDH2(GG 型)の頻度は ALD 患者で有意に高率、MTP(GG 型)は NAFLD 患者で有意に高率であった(p<0.01)。結果② KCNQ1(TT 型)と ADRB3(TT 型)は ALD 関連肝硬変で有意に高率 (p=0.019、p=0.048)、PNPLA3(GG/GC 型)は NAFLD 関連肝硬変で有意に高率であった (p<0.01)。結果③ KCNQ1(TT 型)は ALD および NAFLD-HCC で有意に高率(p=0.032、p<0.01)、KCNJ15(GG 型)は ALD-HCC で有意に高率(p<0.01)、PLPNA3(GG/GC 型)は NAFLD-HCC で有意に高率であった(p=0.045)。ALD、NAFLD の発症や進展に共通・非共通のいくつかの異なる遺伝的背景が関与していることが明らかとなった。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			